

古文書から知る潜伏キリシタンの実像

世界遺産 トピック



▲天草崩れ関係の古文書 上田資料館蔵

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されるにあたり、構成する12資産はそれぞれ、文化的意義や存在の重要性といった「普遍的価値」の証明に苦勞しました。

【その1 「天草崩れ」古文書の意義】

江戸時代の禁教下、キリシタンは表向きには存在せず、歴史資料が多く残っていません。しかし、天草には、江戸時代に潜伏キリシタンがいたことを証明する記録が存在しました。それは、高浜村（天草町）の庄屋であった上田家に所蔵されており、1805（文化2）年にキリシタンが発覚した事件「天草崩れ」に関する一連の古文書です。

古文書には、当時の潜伏キリシタンの習俗・儀礼・信心具・人数・個人名まで記録されており、潜伏キリシタンという実態のあいまいな人たちに新たな光を照らし、その普遍的価値を証明することに大きく役立ったといえます。

世界遺産は不動産で構成されるため、古文書自体は世界遺産にはなりません。しかし、この古文書が存在しなかったら、「長崎と天草」は世界文化遺産に登録されなかったかもしれません。それほどこの記録は貴重な史料です。

「天草崩れ」の一連の歴史は、ドラマチックで魅力的でもあります。次回以降、古文書に記された事実に基づいて、「天草崩れ」の展開を追い、潜伏キリシタンがなぜ発覚したのか、どんな思いを持って暮らしていたのか、その実像をシリーズでお伝えします。ご期待ください。



キラリ 天草人

松永英也さん
ひでなり
（御所浦町）

天草が活気づくきっかけに

天草を巡ると本物そっくりな巨大デコポンやサンタなどのミニユメントに出会う。制作したのは御所浦町の松永英也さん。平成11年に家業の造船業を継ぐため帰郷し、FRP（強化繊維プラスチック）船や生け簀などに使う水槽を製造している。

ミニユメント作りを始めたのは、友人との雑談の中で「造船の技術で恐竜を作ってみれば」という一言がきっかけだった。何にでも挑戦する性分の松永さんは、専門学校でデザインも学んでいたこともあり、これはおもしろいと思った。早速、ユニバーサルスタジオジャパンや博物館の恐竜展などを視察。その後、約1カ月かけて第1号となる肉食恐竜を作り御所浦町へ寄贈した。

作り方は発砲スチロールをカットして形を整えた後、FRPを3〜4ミリの厚さで貼っていく。塗料は赤・青・黄・白・黒の5色を自ら調合しスプレーガンなどを使って着色。こだわりはリアルさを出すことで細部まで似せるために自ら捕まえたタコを2日間観察したこともあるそうだ。本物そっくりだと評判を呼び、手掛けたミニユメントは全国で400体。天草だけでも100体にも上る。

リップルランドのタコを補修したときは、「タコがいなくなった」と心配で所在を尋ねる人が多かったという。



1 タコ入道を補修する松永さん 2 牛深港のハイヤ娘 3 イルカセンターのイルカ

その話を聞いたとき、皆さんから愛されているんだと実感した。

最近ではリアルさに加えおいしそうに見えることも重視している松永さん。「これを見に多くの観光客が天草を訪れ、特産品のタコやデコポンなどを買ってほしい」と笑顔で話す。

これからも天草が活気づく一助になればと思いを込めミニユメント作りをつづけていく。



亀川ダム（栞宇土町）

天草 見どころ図鑑

亀場・栞宇土などの低地は、砂が固まった硬い岩石でできた急崖の山に囲まれています。そこに流れる亀川は、この崖の弱い部分をうまく削り、谷をつくりました。この谷を利用したのが亀川ダムです。

標高差による深い水深と広い流域により豊富な貯水量を確保することができました。

★見どころポイント

ダムを囲む森林と水面に映る木々が美しい場所です。春は桜と新緑、秋は紅葉を楽しむことができます。